




ヨ
ル
ハ
計
画

公演日
5月4日昼



出演者
石川由依<二号>
花江夏樹<九号>
安元洋貴<ジニア>

九号
(ナレーション、以下…ナ)

全ての存在は滅びるようにデザインされている。

生と死を繰り返す螺旋に……

九号(ナ)

僕達は囚われ続けている。

九号(ナ)

これは、呪いか。

九号(ナ)

それとも、罰か。

九号(ナ)

不可解なパズルを渡した神に、

九号(ナ)

いつか、僕達は弓を引くのだろうか？

◎ジニアが陽気な声で

ジニア

やあ、俺の名前はジニア。皆にはジーニアスって呼ばれてる。

ジニア

……嘘だ。

ジニア

ジニアってのは百日草の事だ。何でも長い間咲く花らしい。

ジニア

仕事は、なんていうか……人類軍の技術開発主任担当、ってヤツだ。

ジニア

衛星軌道上にある六番目の基地「ラボ」で新しい機体「ヨルハ」を開発している。

50

ジニア

このラボは最新鋭の開発機材と、優秀なスタッフが集結して……

◎途中で九号が話に入ってくる。

九号

何一人で話してるの？ ジニア。

ジニア

ああ、九号か。

ジニア

何、君たちヨルハタイプの機体が完成したら、きっと世間が注目するだろうから、その時の記者会見用の放送の練習をしておこうと思ってるね。

九号

ははっ。何それ。気が早過ぎない？

ジニア

一流の研究者たるもの、全てに於いて準備は怠らないんだよ。

九号

そんなもんなのかな……あっ、二号だ。

二号

何……何か用？ 九号。

九号

いや、別に用って程じゃないけど。

二号

用が無いのなら、時間の無駄。

51

九号

時間の無駄って。

ジニア

ハハッ。喧嘩はよくないな。

ジニア

二号。コミュニケーションはアンドロイドにとっても大切な行為の一つだ。

ジニア

無駄なんて事はないぞ。

二号

……わかった。

ジニア

よし、今日は皆で運動機能試験だな。

ジニア

そろそろ試験ブロックに集まるように皆に言っておいてくれ。

ジニア

九号。オマエは特に……

◎九号、ジニアの声に重なるように。

九号

「特に注意散漫で他の事に気を取られがちだから、忘れるな」……でしょ？

ジニア

判ってるじゃないか。

九号

さすがに何度も言われたから覚えちゃったよ。

ジニア

じゃあ、10分後くらいに、試験ブロックで集合だ。いいな。

九号・二号

はい。

◎二号は短めに「はい」と回答。

ジニア（ナ）

彼等は、新型の素体となるベースモデルだが……

ジニア（ナ）

俺にとっては、可愛い家族……いや、生徒みたいなもんだ。

ジニア（ナ）

戦場に送り出すのは辛いが……

ジニア（ナ）

俺に出来るのは、奴らが戦場で困らないように強くしてやる事だけだ。

◎少し間があり、ジニア暗い顔で。

ジニア（ナ）

……そう、思っていたんだ。



九号

ねえ、ジニアー。ちょっと聞きたい事があるんだけど。

ジニア

おう。九号と二号か。なんかお前達二人、いつも一緒にいるな？

二号

これは偶然。私はジニアに頼まれていた書類を持ってきただけ。

ジニア

ああ、助かる……で、九号は何しに来たんだ？

九号

いや、特に。たまたま二号が歩いてたから、後をつけてみたんだ。

二号

気持ち悪い。

九号

はははっ。ヒドイなあ。

ジニア

なんだ。じゃれ合うならヨソでやってくれ。
こっちは独り身なんだから。

九号

いやいや、聞きたい事があるんだってば。

九号

ジニアの名前って、花の名前なんだよね？

九号

何でそんな名前を付けたの？

ジニア

俺が付けたんじゃない。配属された先の上官が付けたんだ。

九号

ふーん。名前ってそんなに簡単に付けてもらえるの？

ジニア

勝手にアダ名を付けるのは構わないが、正式名称については基本的には人類軍の上層部の許可が必要だな。

ジニア

そうしないと、管理上色々面倒になるんだよ。

二号

あの……私達は。

ジニア

ん？

二号

私達にも名前って……つけてもらえるの？

◎ジニア、一瞬、ためらいながら。

ジニア

ああ……全部の試験が終わって、配属が決まったら、そこで上官が名前を付けてくれるんじゃないかな。

二号

◎二号、少し嬉しそうに。

そう……

九号

あっ、二号。そろそろ記憶領域のチェックの時間だ。

九号

サーバー管理室に行かないと。

二号

わかった……ジニア、ありがとう。

◎少し嬉しく聞。

ジニア（ナ）

◎ジニア、急に暗い顔になって。

あの子達に正式な名前が付けられる事はない。

ジニア（ナ）

ヨルハ機体には、強力なエネルギー供給源として、
機械生命体のコアを流用している。

ジニア（ナ）

敵軍のテクノロジーを組み込んだ機体は、
正当なアンドロイドとしては扱われない。

ジニア（ナ）

運用時にも記号で呼ばれ続ける事が、
既に上層部の会議で決定してしまっている。

ジニア（ナ）

俺は一体……

ジニア（ナ）

一体、何をやってるんだ……

◎ジニア、シリアスな口調で。

2週間前。

ユーラシア大陸東部の広大なエリアが機械生命体共の手に落ちた。

「昼の国」では竜騎兵の運用が出来ない事もあり、
アンドロイドの戦線は後退する一方だ。

原因は判ってる。アンドロイド達が戦意を失っているからだ。

早急に新兵器を投入する必要があるが、
開発している新型機「ヨルハ」は問題だらけだった。

ジニア

ジニア

ジニア

ジニア

ジニア

ジニア

ジニア

二号

ジニア

二号

多く見積もっても数百機程度の機体運用しか出来そうにない。
このままでは戦況を逆転する事は難しいだろう……

ジニア。入っていい？

ああ、二号。どうしたんだ？

ちょっと質問が。

ジニア

何だ？

二号

衛星軌道上で地球相対座標を得る時に、
雲で地上が観測出来ない場合は、
どうやって自分の位置を測定すればいい？

ジニア

二号

そんな事は滅多に起こらないと思うが……
もしそうした状況が発生したら、その時の時間と、観測範囲内にある
星の位置から逆算すればいい。たとえば、オリオン座とか……
オリオン座？

ジニア

そうだ。昔の人類は星々の並びを神に例えて空を見上げたんだ。

ジニア

私達には信じる神はいないが、星座の座標情報は残っているから、
調べてみると……

◎ジニア、何かに思いつく。

ジニア

……そうか。なるほど……

二号

ジニア？ どうしたの？

ジニア

いや、何でもない。いや、むしろありがとう。

二号

……変な人。

ジニア（ナ）

そうだ。アンドロイドが戦意を失いつつあるのは、信じるべき人類を失ってしまったからだ。

66

ジニア（ナ）

ならば、その人類を作ればいい。

ジニア（ナ）

俺は一週間かけて計画の素案を練った。

ジニア（ナ）

概要はこうだ。

ジニア（ナ）

まず「人類が生き残っている」という発表を全世界のアンドロイドに向けて発表する。

ジニア（ナ）

そうすると、当然、「人類に会わせる」ってヤツが出て来る。

ジニア（ナ）

そいつらを納得させる為に、月面に人類が放送しているかのようなサーバーを作る。

ジニア（ナ）

今、ちょうど人類情報を保存している無人基地があるから、それを流用すればいい。

ジニア（ナ）

とりあえずこのサーバーを「人類会議」と呼ぼう。

ジニア（ナ）

次に、人類会議との連絡用として、専任のアンドロイド特殊部隊と、十三番目の衛星軌道基地を新たに用意する。

ジニア（ナ）

人類会議の存在が全アンドロイドに周知されるまで、その体制を……

67

ジニア（ナ）

◎途中までいいかけて躊躇うジニア。

……いや、ダメだ。こんな計画、リスクが大きすぎるし、永遠に情報封鎖をする訳にもいかない。

ジニア（ナ）

この計画は、廃棄する必要が……

◎その時、九号が声をかける。

九号

あれ？ ジニアさん。どうしたんですか？ そんな暗い顔して。

ジニア

◎ジニア、動揺しながら。

お、おお……そんな酷い顔してたか？

ジニア

いや、なんでもない。九号。

ジニア

◎ジニア、再び暗い声で。

なんでもないんだ……

◎九号、シリアスな口調で。

九号（ナ）
その時、二号は大気圏突入試験の為、ラボの外、
宇宙空間で待機していた。

九号（ナ）
降下試験ユニットの準備を終えた彼女は、
ラボからの試験開始指示を待っていた。

九号（ナ）
だが、予定されていた試験開始の合図はなく、
通信にもラボは反応しない。

九号（ナ）
予定時間を15分程過ぎた段階で、通信環境の不具合と判断し、
ラボに戻る事にした。

九号（ナ）
そして彼女は目撃する。

九号（ナ）
ラボに何が起きているのかを……

◎二号、何かに気づく。

二号
何……あれ……ラボから煙が……

九号（ナ）

ラボのカタパルトからは煙が吹き出していた。

九号（ナ）

二号が格納庫に到着するも、通常照明は全て消えており、真っ赤な非常灯だけが明滅している。

九号（ナ）

火災だった。

九号（ナ）

衛星基地での火災は地上のそれとは訳が違う。

九号（ナ）

逃げ場もない上、様々な資材が積み込まれているラボは、危険な火薬庫も同然だった。

◎二号、咳き込みながら。

二号

九号！ ……ジニアッ!!

二号

待ってて、助けに行く……!!

九号（ナ）

彼女は無謀にも、ジニアの部屋に向かう。

九号（ナ）

重力制御がおかしくなった廊下は歩く事すら難しかったが、

九号（ナ）

二号は壁を蹴るようにジニアの研究室に辿り着き、扉を開ける。

二号

ジニアッ……!!

九号(ナ)

そこで彼女が目にしたのは、燃え上がる機材と書類。

九号(ナ)

そして倒れている仲間達。

二号

四号……二十一号……みんなどうしたの!?

ジニア

ウッ……

二号

ジニアッ!? 何が起こったの!? それに、みんな……?

◎瀕死のジニア。

ジニア

駄目だ……二号……逃げる……

九号

フッ!!

◎九号が攻撃し、二号に当たる。

二号

アアッ!!!

◎九号。冷静な喋りで。

九号

へえ……さすが戦闘の得意な二号……
致命傷は追わなかったみたいだね……

二号

九号……一体、これは……

九号

ねえ、二号。知ってた？ 僕達ヨルハ機体に隠された秘密を。

ジニア

九号……やめろ……

九号

うるさいッ!!

◎蹴られて悶絶するジニア。

ジニア

グアアアアッ。

二号

やめて！ 九号！ ジニアが何をしたって言うの!?

九号

ああ、こいつ？

九号

こいつはね……信じられない方法で、僕達ヨルハ機体を作ったんだよ。

九号

僕達の体の中に、ブラックボックスってあるよね？

九号

エネルギー効率の異常に高い融合炉って教わってたけど……

九号

実は、機械生命体から採取されるコアを集めて、再構成したエネルギー器官だったんだよ。

◎九号、乾いた笑い。

九号

ハハッ。おかしいよねえ。

九号

九号

二号

九号

九号

九号

僕達は人間じゃないどころか、

よりによって機械生命体と同じ仕組みで動いてるんだ。

もう、こんなのアンドロイドですらない……バケモノだ。

でも、だからって、こんな……

いや、二号。

話の本題はここからだ。

ジニアは、さらに信じられない計画を立案していた。

九号

九号

九号

九号

九号

九号

月面に人類がいるかのように偽装して、
アンドロイド達の士気を高める計画だ。
だけど、ジニアの計画は不完全だった。

月面のサーバーを管理する衛星軌道基地。
そこから情報が漏れる恐れがあるからね。

だから僕は計画を書き換えた。

新たに作られる十三番目の基地にはバックドアを仕掛け、
一定期間で開放する。

機械生命体からの攻撃によって、基地は壊滅。
その後、月面のサーバーからのみ通信を行う。

◎九号、ゆっくりと後ろに振り向く。

◎徐々に、演説口調になる九号。

そうやって、僕達はアンドロイドの為の「神」を、
月面に作り上げるんだ!!

既に月面のサーバーに計画を遂行する為のプログラムは送った。

僕達ヨルハ機体の設計図も含まれてる。

このまま、自動的に製造されるヨルハの部隊によって、
神は生み出され……

九号

九号

九号

九号

九号

九号

そして、僕達ヨルハ部隊はその神の為に、殉教するんだよ!
ねえ、二号。僕はこの計画を「ヨルハ計画」って名付け……
グッウウウッ!!

◎九号が振り向く途中で、いきなり二号が刀を刺す。

お願い……九号……貴方は、狂ってる……!!

ウッ……ウウッ……

もう、この計画は……止められない……

僕達は、再び、製造される……

九号

九号

九号

二号

九号

だけど、今の僕は……君に……君に殺されて……

九号

よかつ……た……

二号(ナ)

九号の命を奪った私は、その場に座り込んだ。

二号(ナ)

炎の中で、九号は少し笑顔だったようにも見える。

九号(ナ)

ねえ、二号。

九号(ナ)

僕達の生まれた意味ってなんだろう。

二号(ナ)

わからないよ。九号。わからない……

二号(ナ)

ここから先の未来は、悲劇しか生まない。

二号(ナ)

私達は、どこかで間違えてしまった。

二号(ナ)

私達は、もう、赦されない……永遠に……

二号(ナ)

永遠に。

(終)